

令和 2 年 7 月 4 日現在

機関番号：32687

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04747

研究課題名（和文）アクティブ・ラーニングによる思考力育成のための道徳カリキュラムの研究

研究課題名（英文）The study of moral education through active learning for critical thinking

研究代表者

浅沼 茂 (ASANUMA, SHIGERU)

立正大学・心理学部・特任教授

研究者番号：30184146

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究「アクティブ・ラーニングによる思考力育成のための道徳カリキュラムの研究」は、対話を中心とするアクティブな道徳教育を、ユルゲン・ハーバーマスが明らかにしてきたような「相互理解」と「合意形成」を目指す方法としてナラティブ評価を対話と評価の過程として捉え、その実践可能性を探った。それは、これまで、到達目標のように指標となるような目標の文章を先におき、その目標を基準として評価するような実践を企画ごとに確定するような方法とは異なる。本研究は、実際に出てきた結果において個々人の主観的な経験が大きな位置にあることを明らかにするために、ナラティブ的な手法に基づき、結果そのものにて評価する方法である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、特定の価値観を押しつける伝統的な道徳教育に対して、相互理解と合意形成を基礎とした道徳教育の実践がいかにして可能であるかを探ったものである。それは、後段解釈自由話し合いのような単なる話し合いと異なり、コールバーグ流の価値葛藤による、道徳意識の覚醒をもとにしている。しかし、道徳的判断力は、価値判断の価値基準の序列、法や規範を超える相互主観的な意識の葛藤と合意形成が難しく、あえてその課題に取り組むことが、個々人の思考力や判断力の発達に寄与するということを実証的に明らかにした。その具体的実践が可能であり、必要であることを示した。

研究成果の概要（英文）：This study is about the empirical research intriguing the possibility of the narrative method of the individual moral development. The research data has implicitly and explicitly shown the possibility of the narrative dialogue, in which the individual subjectivity is explicated in terms of the narrative context. It would be identified in the inter-subjective dialogue. L. Kohlberg is an initiator designed the structure developmental stages of morality. It is assumed that the moral development can be delineated in terms of universal psychological terms. On the other hand, J. Habermas has explored the possibility of dialogue which constitutes the situational validity based on the mutual understanding and consensus oriented rationality. Habermas assumes the there is an universal validity exists in the predicative dimension, which pedagogy has to explore in the life-world. The moral education should also be rooted in the dialogue and inter-subjective context.

研究分野：カリキュラム理論

キーワード：道徳教育 価値発達 価値葛藤 相互主観性 合意形成 コールバーグ ハーバーマス 対話的合理性

1. 研究開始当初の背景

道德教育においては、戦前の徳目主義道德のパラダイムが支配しており、戦後においてもその主要な流れは、現場においては変わっていない。他方、コールバーグ流の価値葛藤理論に基づく道德的発達の実践は、一部の現場教師によって先行されている。本研究は、このコールバーグの方法に加え、対話とナラティブという価値葛藤の文脈を拡大することの必要性を強調した実践手法の開発を明らかにした。徳目主義道德派は、近年、後段解釈自由というようなフレーズを掲げ、フリートークを可能にするような方法を主張している。けれども、価値判断の文脈は、なおざりにされ、その思考はどうあるべきかという重要な道德教育の課題からは遠ざかっている。

2. 研究の目的

本研究「アクティブ・ラーニングによる思考力育成のための道德カリキュラムの研究」は、対話を中心とするアクティブな道德教育を、ユルゲン・ハーバーマスが明らかにしてきたような「相互理解」と「合意形成」を目指す方法としてナラティブ評価を対話と評価の過程として捉え、その実践可能性を探ることを目指した。それは、これまで、到達目標のように指標となるような目標の文章を先におき、その目標を基準として評価するような実践を企画ごとに確定するような方法とは異なる。本研究は、実際に出てきた結果において個々人の主観的な経験が大きな位置にあることを明らかにするために、ナラティブ的な手法に基づき、生徒相互の対話の過程を文脈を解読し、その相互主観性の現実を暴き出すことを目指した。

3. 研究の方法

研究の方法は、現場の教員によって道德、社会科、総合学習において、価値葛藤を引き起こすようなストーリー場面を導入し、自らの主体的判断を引き出すように試みた。実際の実験授業は、小学校、中学校、高校など多様な発達段階の生徒が、どのような価値発達をしているのかを、討論と対話の過程を記録し、そのコンテキストをその場面ごとに分析し、文章化した。

本研究は、特定の価値観を押しつける伝統的な道德教育に対して、相互理解と合意形成を基礎とした道德教育の実践がいかんして可能であるかを探ったものである。それは、後段解釈自由話し合いのような単なる話し合いと異なり、コールバーグ流の価値葛藤による、道德意識の覚醒をもとにしている。しかし、道德的判断力は、価値判断の価値基準の序列、法や規範を超える相互主観的な意識の葛藤と合意形成が難しく、あえてその課題に取り組むことが、個々人の思考力や判断力の発達に寄与するということを実証的に明らかにした。その具体的実践が可能であり、必要であることを示した。

4. 研究成果

研究の成果は、当初の仮説を証明するような形で得られた。その全容は、浅沼茂編著『思考力を育む道德教育の理論と実践：コールバーグからハーバーマスへ』（黎明書房、2018年）において、詳述されている。なかで、徳目主義道德による徳目の教科道德が、いかに子供たちの道德教育へのモチベーションをそぎ、日常生活における重要な価値判断を回避し、思考力の発達を阻害しているかを明らかにした。このような伝統的道德教育に対して、現代社会

や日常生活において価値葛藤がふだんに存在に、その問題を問題として学級での道徳的思考様式が、以下に複雑で人間の思考能力を高めるかということを証明した。特に、やったらやり返せ式の因果応報の倫理、皆がやるから自分もやる式の他者思考、法や規範があるから秩序への絶対的服従を超える、社会契約や社会的正義のようなより高次の価値発達段階は、より複雑化した現在社会においてこそ求められているカリキュラムであることを明らかにしえたものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 浅沼 茂
2. 発表標題 対話と深い学びのカリキュラム－ハーバーマスの道德教育－
3. 学会等名 日本カリキュラム学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeru Asanuma, Shuji Masuda
2. 発表標題 The laughter makes teachers more powerful: more real than didactics
3. 学会等名 Japan-U.S. Teacher Education Consortium Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeru Asanuma
2. 発表標題 Civic education and morality in Japan: Influenced by the West
3. 学会等名 NCTU Global Citizenship Workshop and Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅沼 茂
2. 発表標題 八年研究の概要と現代的意義
3. 学会等名 日本デュイ学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅沼 茂
2. 発表標題 八年研究とタイラー原理批判の現代的意義
3. 学会等名 アメリカ教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeru Asanuma
2. 発表標題 The Japanese autobiographical method creates the children's transcendence in a classroom
3. 学会等名 6th World Curriculum Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅沼 茂
2. 発表標題 新道徳教育のカリキュラム：差異化と合意形成の意義
3. 学会等名 日本カリキュラム学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 浅沼 茂	4. 発行年 2018年
2. 出版社 川島書店	5. 総ページ数 440
3. 書名 甦る教師のために	

1. 著者名 浅沼 茂	4. 発行年 2018年
2. 出版社 黎明書房	5. 総ページ数 203
3. 書名 思考力を育む道德教育の理論と実践－コールバーグからハーバースヘー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----